岡山市広報連絡資料

令和5年6月30日

企画展示「戦災を免れて～国富家文書が岡山市立図書館に収蔵されるまで」を開催します

岡山城下町の惣年寄役を務めた豪商、国富家の文書（約500点、岡山市立中央図書館蔵）は、江戸時代の市政の重要な記録ですが、昭和20年の岡山空襲で罹災を免れ、岡山市へ寄附されました。そのいきさつを、文書を搬出・整理した歴史家、渡辺知水の動きを通して紹介します。

1 日 時

令和5年7月21日（金）～8月30日（水）　毎週月曜日は休館
開館時間　10時～18時（木曜日は11時～19時）

2 場 所

岡山市立中央図書館　2階視聴覚ホール前　展示コーナー（北区二日市町）　入場無料

3 内 容

・江戸時代の岡山城下町の市政の記録、国富家文書は、昭和 20 年 6 月 29 日の岡山空襲に際し、市内中心部の国富家本邸にありましたが、堅牢な土蔵の中で奇跡的に焼失を免れました。

・文書は、当主の国富友次郎（教育者で、戦時中に岡山市長を務めた）が岡山市への寄附を希望。戦時下でしたが、渡辺知水たちが搬出して分類・整理し、昭和 20 年 9 月に寄附の手続きが取られました。このことは、戦災で全焼した岡山市立図書館の戦後の再出発につながっていきました。

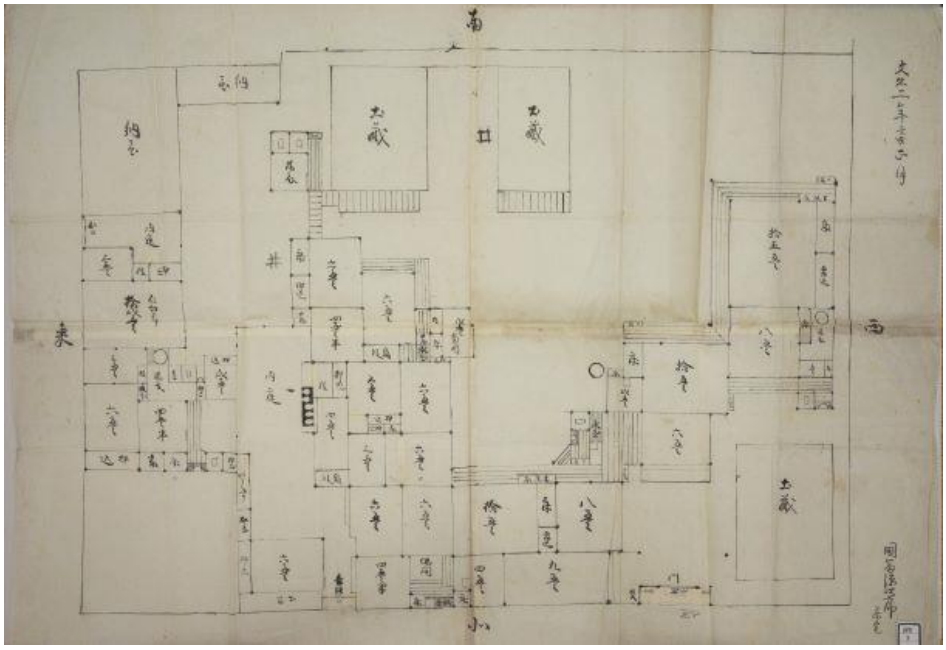
・そこで関連資料約 30 点を展示し、国富家文書の図書館への収蔵経緯を紹介します。資料から読み取れる国富友次郎と渡辺知水の信頼関係と、知水が資料保存へ注いだ熱意が見どころです。

4 その他

関連講座 「国富家文書の収蔵のいきさつと渡辺知水」
日時　令和5年8月13日（日）14時～16時
会場　岡山市立中央図書館　2階視聴覚ホール　先着60名（申込不要）　聴講無料
講師　飯島章仁（当館学芸副専門監）

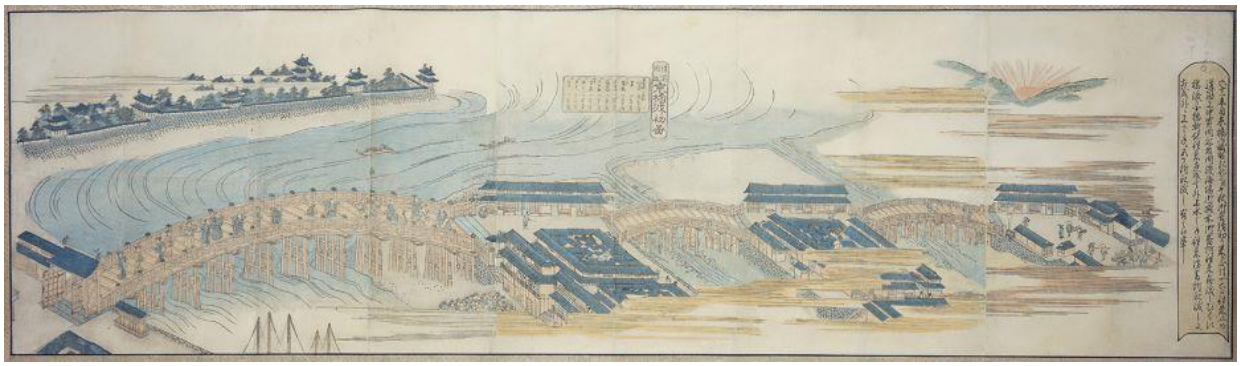
【問い合わせ先】　文学創造都市 岡山
岡山市立中央図書館　永田・飯島　直通086-223-3373

おもな展示品 （※本展の展示品はすべて、岡山市立中央図書館の所蔵です）



文久２年(1862)の国富家本邸 （「文久二年壬戌（みずのえいぬ）正月　国富源次郎居宅図面」 国富文庫 095.3）

国富家が岡山城下町の惣年寄役を務めていた頃の屋敷図面です。大規模な町屋の数棟分を占める敷地で、市内の旧紙屋町（現、北区表町三丁目）にありましたが、商家が密集する中心市街では広大な邸宅です。明治以降に一部改変されますが、大きくは変わらず、昭和２０年の戦災を迎えました。この図には ３ 棟の土蔵が描かれており、そのひとつに町方行政の文書が保管されていたようです。城下の商家の屋敷図としても貴重な例です。

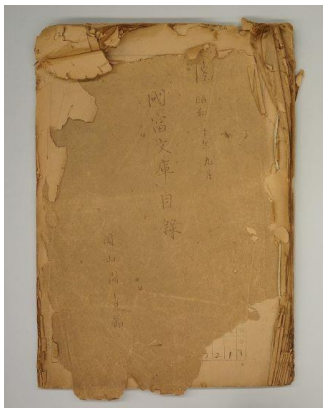


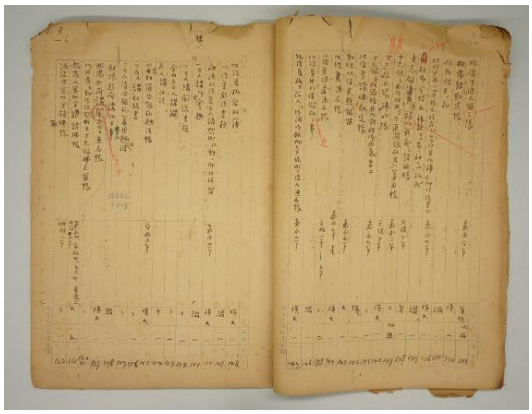
弘化4年(1847)の京橋の渡り初め式を描いた錦絵（「備前岡山京橋渡初（わたりぞめ）図」 国富文庫 096.42）

幕末の弘化4年に、京橋の架け替え工事が終わって挙行された「渡り初め式」を描いた錦絵です。この時の工事を城下町の惣年寄役として采配しているため、国富家に伝わってきたと考えられます。江戸時代の岡山市街を生き生きと描いたこの絵は、国富家文書を代表する資料として広く紹介されてきました。国富家文書は現在、岡山市立中央図書館に所蔵されています（「国富文庫」）。

西川にかかる田町橋付近の岡山空襲後の写真　（宗政博氏撮影）

　左の遠方に焼け残った一棟の土蔵が写っています。市内紙屋町にあった国富家の土蔵については写真が残っていませんが、被災地の各所で、これと同様の光景があったことと推察されます。





「昭和 20 年 9 月　国富文庫目録」

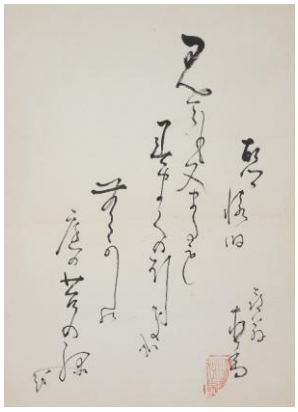
　渡辺知水や吉岡三平（当時の岡山市立図書館長）らが空襲後、臨時市役所になっていた弘西国民学校（現在の北区弓之町）へ国富家文書を運び込み、分類・整理したときに作成された目録です。戦時下のため粗末な紙に書かれており、今では劣化が進んでいますが、大切に保存されています。

古文書に見る郷土民情

朝鮮の旅誌る

合同新聞（現在の山陽新聞）の記事（「古文書に見る郷土民情」、昭和 20 年 9 月 15 日付）

　分類・整理と寄附の手続きが済んだ国富家文書が、昭和 20 年 9 月 14 日に弘西国民学校で市民に披露されたことを報じています。最下段に「備前岡山京橋渡初図」の図版が掲載されています。



国富友次郎（昭和 24 年）

国富友次郎の和歌の色紙（軸装、書画 A-1-89）

国富家の当主で、昭和 15～19 年に岡山市長を務めた国富友次郎（明治 3 年～昭和 28 年）は、就実学園の前身、岡山実科女学校の創設に携わり、岡山県教育会長として幼児教育と女子教育および障害のある児童の教育に尽力した教育者でした。小学校教員をしていた渡辺知水（明治 18 年～昭和 45 年。現在の総社市出身）に歴史家としての資質を見いだし、教育会の機関誌の編集に当たらせるなどして引き立てました。また、歌道と茶道にも通じた人でした。この色紙には、戦災で焼失した自邸を懐かしむ和歌「見ても又 またも見まくもほしきかな むかしの庭の苔の緑を」が記されています。

※以上に加えて、渡辺知水が戦時下の昭和18～19年に市内の社寺や国富家を含む個人宅などを訪れて数多くの貴重な古文書を筆写した資料と、国富家文書の中から江戸時代の岡山城下町の市政の様子がわかる代表的な古文書を選んで展示します。

※あわせて、岡山市立図書館の戦前・戦後の歩みがわかる写真も展示します

（左）市内小橋町（現、中区小橋町一丁目）にあった戦前の岡山市立図書館
（中）弘西国民学校の 2 階に設けられた図書館仮事務所（昭和 20 年 8 月 9 日～11 月 27 日）
（右）市内の石山（現、北区丸の内二丁目。山陽放送会館の場所）にあった木造の市立図書館（昭和 24～36 年）に付設して、コンクリートブロック造の書庫が完成したところ（昭和 28 年 9 月 8 日）。